育てたい非認知能力
夢育

教育の情報化研修資料

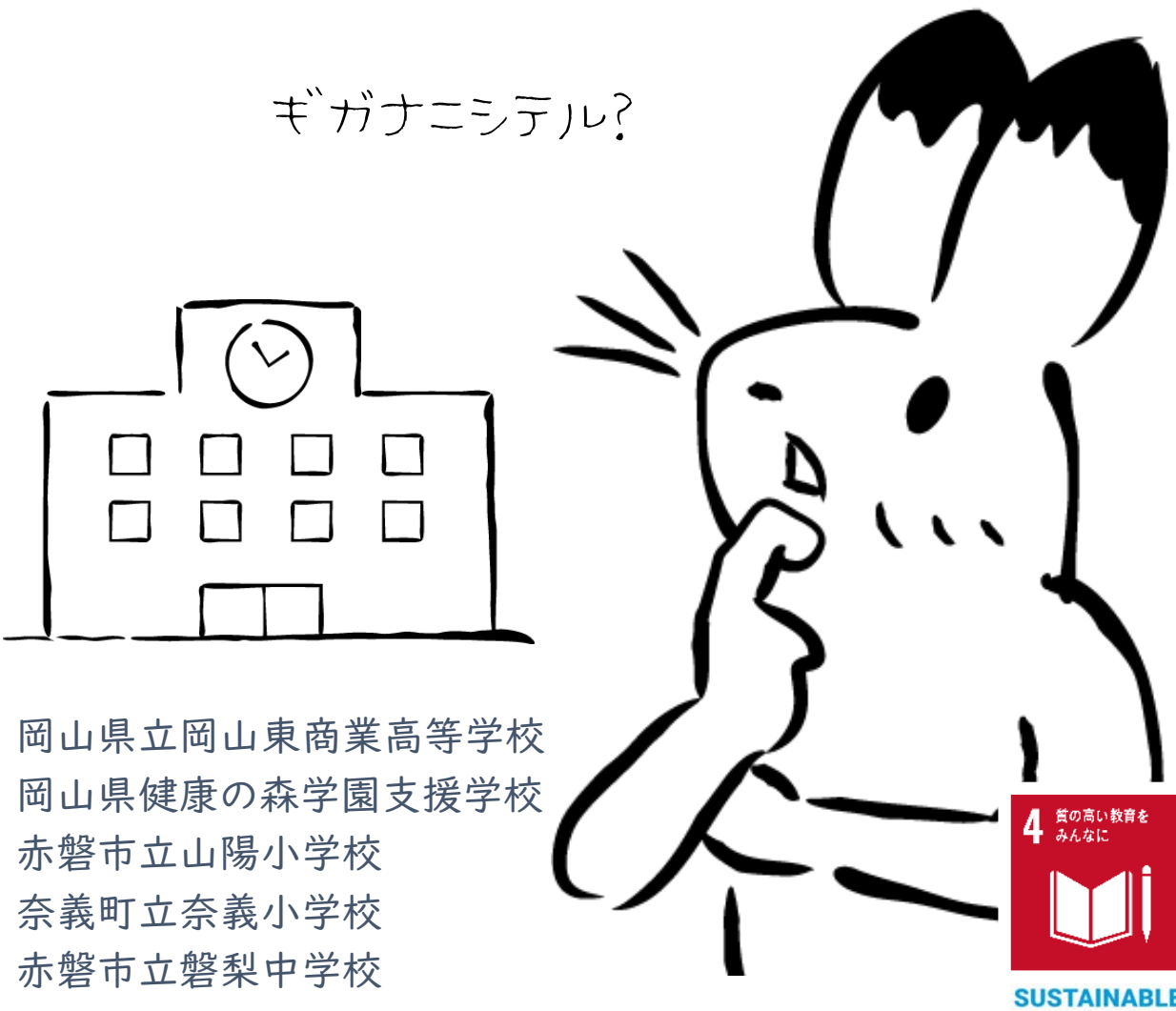
おかやまICT活用実践事例集

Web版

～ 主体的な学びを充実させるICT活用 ～

全体版
vol.3
2021.12

Ver.211210



岡山県立岡山東商業高等学校
岡山県健康の森学園支援学校
赤磐市立山陽小学校
奈義町立奈義小学校
赤磐市立磐梨中学校

4 質の高い教育をみんなに

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

岡山県総合教育センター

この資料の表紙のフォントは”UDデジタル教科書体”を使用しています。(一部)(裏表紙に詳細あり)

高等学校

岡山県立岡山東商業高等学校の取組

ロイロノートの活用・1人１台端末の活用実践

岡山県立岡山東商業高等学校でのGIGAスクール構想推進の取組を取材しました

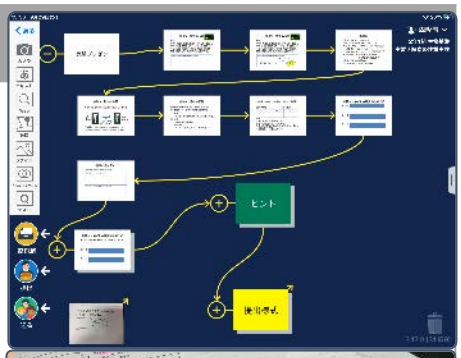
【概要】
岡山東商業高等学校では、ICT活用で目指す学びについて「授業を通じた様々な学習活動や協働学習によるiPad活用の習熟」「ICT機器の積極的な活用による学習意欲の向上」「適切なアプリ等の活用による個別最適な学び」「体験活動や探究活動におけるICT活用（調査、レポート等）による主体的な学び」の４つの柱を掲げている。これまで８年間に渡って取り組まれてきたICT（iPad）の活用が、1人1台端末の実現によって大きく進化している。その取組の一部を紹介する。

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 教科指導における活用

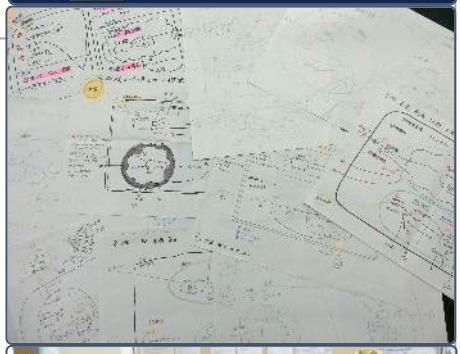
1 ロイロノート活用に向けた歩み

・８年前からiPad上で本格的にロイロノートの活用を開始し、主な取組として理科の実験において、補助的に説明動画や資料を提示している。一度の説明では理解が難しい生徒でも自分のペースで繰り返し確認・閲覧できる。
・５年前からは、有料版のロイロノートを活用し、タブレットだけで学習を完結させないようにしている。ノートやプリントに書いた考察やまとめを写真機能で撮影し提出させることで、アナログとデジタルのそれぞれの良いところをうまく取り入れる工夫を行っている。



2 思考の可視化やクラス全体への成果物の共有などによる、思考力・判断力・表現力の育成

・ロイロノートは操作に対する指示がほとんど必要なく、直感的な操作が可能で、学習内容に集中できる。
・1人１台端末の導入によって、個人やグループでの思考後、成果物を共有し、クラス全員に対して瞬時に可視化することができる。
・生徒はiPad上に共有された複数の成果物を見ながら、授業内容の理解を深めたり、相互評価したりすることができる。
・教師・生徒間だけでなく生徒同士でもロイロノートの中でデータを共有し、発表に向けてプレゼン資料等を作成することができる。
・授業の中で、生徒の回答をロイロノートの写真機能で撮影し、全体で共有しながら答え合わせができる。
・「総合的な探究の時間」においては、各自の課題解決に向けて、「調べる」、「まとめる」、「発表する」の一連の学習活動で統合的に活用できる。
・商業科の授業では、ロイロノートの小テスト機能を使い、回答結果のリアルタイム表示での理解度確認ができる。自動採点により採点時間も短縮できる。



3 商品開発の授業で、学校キャラクターを活用した「高校入試合格祈願文房具」の開発

・科目「商品開発」（３年生）の授業では、既習内容を活かしながら実際に商品の開発に取り組んでいる。
①商品の構成要素に関する情報収集の場面では、ロイロノートのWeb検索機能を利用して、クラウド上に収集したデータを蓄積する。
②考案した商品アイデアを説明するための資料作成では、収集した情報を元に、ロイロノート上で提案シートを作成する。
③作成した資料を用いた発表会では、発表に用いる資料は、プロジェクターに投影するが、各端末にも画面配信する。細部まで見る必要がある商品設計図は、発表時に画面を拡大し、ポイントとなる部分に注目させる。

B 推進体制の整備と校務への活用

4 「デジタル室」を中心としたICT推進体制と研修の充実が、学校全体の取組となり活用につながる

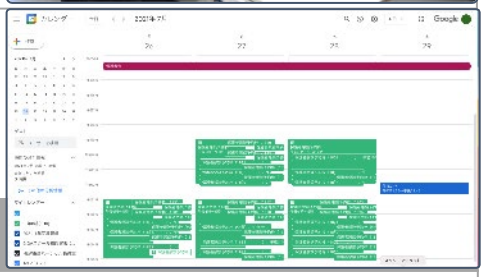
・今年度から「デジタル室」を立ち上げ、各学年に数名ずつ担当者を配置し、ICTの活用の推進と実践を行っている。
・ロイロノート・スクールの基本操作やGoogle Workspace演習など、オンライン研修などの外部講師も活用し、テーマを絞った研修を年間で14回程度行い、校務の合間を縫って教職員のスキルアップとICT活用の意識向上に努めている。
・学校内のグループウェアサービスを使い、校内研修案内などの情報について効果的な発信を行っている。
・職員会議は１学期の途中から、朝礼連絡は２学期からペーパーレス化を実践している。

5 教職員の「学び合う」「助け合う」風通しの良い環境、安全・安心なネットワーク環境整備に向けて

・ICTを活用した学習効果や成果をイメージすることが難しい場合も多いため、若手教員が率先してロイロノートを使った授業での効果検証を行い、その成果を踏まえ、職員室では、教職員の「学び合い」「助け合い」が広がっている。
・時間割によって集中的にICT端末を使用する場合のトラフィック増加によるトラブル対応として、ネットワークの負荷軽減に向けた原因究明や検証作業などを「デジタル室」を中心に組織的に行っている。

6 保護者面談日程調整の簡略化

・教員側が日程調整する必要がなく、保護者が変更してもすぐに反映されるため、直前でないと都合が確定しない保護者にも対応できる。
・生徒各自のGoogleカレンダーに反映されるため日時忘れ等も少なくなり、働き方改革につながる取組である。



C 教育活動全体を「つなぐ」活用

7 朝の10分間の学習時間（朝学）を使ったEnglish 4 skillsの活用と検定に向けた解説動画の配信

・英語４技能をオンラインで学習できるアプリ「English 4 skills」を導入し、診断結果に基づいて各自で取り組む級を設定させ、生徒一人一人にあった学習を進めている。
・実用英語検定や全国商業高等学校協会主催の英語検定の対策として、朝学と家庭学習をつないだ取組を進め、教師は生徒の進捗状況を確認し、個別に助言し効果的な取組を促している。
・珠算・電卓実務検定や情報処理検定の合格に向けた朝学でも、端末を活用した説明や演習を行っており、教師の解説を各教室に配信している。解説動画はGoogle Classroomで繰り返し確認できるように工夫している。
・会計サポートを活用した、日商簿記３級の解説動画を使った予習・復習が可能である。理解を促進するために、授業だけでなく自宅学習にも応用している。

8 健康観察や各種アンケート、緊急連絡などでの活用

・Google Formsなどを利用し、生徒一人一人の健康状況を蓄積し、学校全体で共有することで、体調の変化が把握できるため、過去の健康状態と照らし合わせて病気を未然に防ぐことも可能。また、各種アンケートについても積極的に自動化することで、集計の手間や日程調整を軽減し、働き方改革につなげている。
・各クラスや部活動においても、Google Classroomを資料配付や連絡ツールとして活用している。また、部活動については、スケジュール（振り返り）手帳も活用し、アナログとデジタルの双方のメリットを生かした取組をしている。

【まとめ】 岡山東商業高等学校では、８年前から取り組まれているロイロノートを使った生徒の主体性を育むiPadの活用や研究成果をもとに、GIGAスクール構想実現に向けて、全教職員が様々な場面において「学び合い」や「助け合い」ができる風土を大切にし、1人１台端末の導入における新学習指導要領の着実な実施と、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた授業改善の取組を進めている。また、ICT端末の利活用に向けて、学校全体で取り組むための推進体制づくりや校内研修の工夫や充実を図り、教職員の日々の困り感を軽減する取組をしている。これらの取組によって、岡山東商業高等学校が目指しているGIGAスクール構想で実現したい学び（４つの柱）につながるのではないかと考えている。

支援学校

岡山県健康の森学園支援学校の取組

GIGAスクール環境で教育の情報化の取組がさらに加速

GIGAスクール環境を活用した教育の情報化の取組を取材しました。

【概要】

岡山県健康の森学園支援学校は、小中学校で１人１台端末等のICT活用に関する、文部科学省・総務省の実証実験が行われた教育の情報化の先進的地域である新見市にあります。2011年からiPadを導入し、特別支援教育の観点での個に応じた支援の中でICT活用を進めてきました。個別の学習でのアプリの活用や一斉指導における説明場面でのスクリーン投影型のICT活用について、多くの実践が積まれています。

GIGAスクール構想の推進に関する環境整備では、校内のWi-Fiや１人１台端末、教育クラウドの整備が進み、それまでの実践に加え、Web会議システムや教育クラウドを積極的に活用した新たな取組が広がっています。

今回の取材では、このGIGAスクール環境を有効に活用した新たなICT活用の様子を取材しました。

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 遠隔技術の活用

1 感染症対策による学校行事でのリモートの活用

【参観週間】

・参観週間の取組を感染症対策としてリモートで実施している。保護者の希望により１週間の参観期間中の学校生活や寄宿舎生活を選んで、児童生徒の様子を参観できるようにした。健康の森学園支援学校は県内全域を学区としており、遠隔地から登校している児童生徒も多く、普段参観日に参加できない保護者や家族も参観することができ、好評だった。

【学校説明会】

・進学や見学の希望者を対象とした学校説明会をリモートで実施している。学部での授業や寄宿舎での日常生活の様子の紹介や進路相談をリモートで実施することにより、コロナ禍でも、中止することなく計画通りの学校説明会を実施することができている。

2 児童生徒の活動の中でのリモートの活用

【学校間交流】

・市内の学校との学校間交流をリモートで実施している。初めて行った昨年は、プロジェクターを使い、交流校と大画面でつないだが、今年度の交流では大画面だけでなく、１人１台端末を使い、個々の顔が見える状態でつないだ。顔が見えることにより、児童生徒が交流をしているという臨場感をより感じることができた。休憩時間もお互いに話しかける場面があり、授業時には見ることができない自然な関わりを見ることができ、リモートならではの効果もあった。中学部では作業学習で、花の苗のポット作りを一緒に取り組んだ。

【訪問教育】

・小学部では、訪問教育での授業を、リモートを活用し学校とつないで合同で実施している。同学年や同世代の友達との交流の少ない訪問教育生にとって、経験を広げる新たな取組となっている。

【寄宿舎】

・３棟ある寄宿舎では、全員が集合することが難しいため、寄宿舎間の打合せだけでなく、行事も全てリモートで実施している。

3 校外機関との連携での活用

・感染症対策のため校外との交流が難しくなり、積極的にリモートを使い、会議や交流の場を確保している。校外実習での企業の方との打合せや児童生徒への助言、各職場への教員の巡回、地域のセンター機能としての専門指導員による教育相談、ＡＬＴによる外国語指導等、コロナ禍でも活動を止めない工夫をしている。

B 授業での活用

4 写真機能の活用

・児童生徒が１人１台端末（iPad）を学習の中で最も活用するのは、写真機能である。小学部の児童も自分で写真を撮ることができ、撮った写真を使って発表したり、学習内容の振り返りに活用したりしている。写真を使っての発表は、説明や感想がより具体的になり、児童生徒の表現力が豊かになっている。

5 自己管理のツールとしての活用

・高等部では各自の端末を使って、スケジュールの管理を行っている。毎週の予定を確認して、必要なメモや資料も端末に保存している。生徒が日常的に使いこなすことにより、校外実習や卒業後の社会生活での自己管理のツールとしての活用も考えられる。

6 コミュニケーションロボット

・iPadを使って遠隔操作でコミュニケーションを取ることができるロボット「OriHime（オリヒメ）」を活用している。行事に参加できない児童生徒がロボットを使って、教室にいながら校外学習に参加したり、離れたアンテナショップの店員として接客をしたりする学習を行っている。Web会議システムでの交流と違い、ロボットになりきり、言葉だけでなく手や頭などの動作を使い、自分の分身としてどこでも行くことができる体験は児童生徒にとって、新たなコミュニケーションの体験となっている。

7 教材データベース「けんもり教材」

・感染症による休校対策として、授業での教材や自習用の動画を、教材データベース「けんもり教材」として、Web上で公開している。リモートと組み合わせることにより、遠隔授業や家庭学習、自主学習で活用することができる。今後も感染症や災害による休校や出席停止が考えられる中、様々な授業形態を想定した準備をしておくことは、学びを止めない観点からも重要なことである。

C 校務での活用

8 教育クラウドを活用したペーパーレス会議

・Googleドライブを活用したペーパーレスの取組を行っている。教員の１人１台端末を活用し、会議の資料をPDF形式のデータで共有することにより、資料準備や保管に効率化が図られている。今後、寄宿舎を含む教職員全員への端末整備が進めば、スケジュール機能等を活用することで、勤務時間の異なる、学部と寄宿舎の職員間での情報共有や連携のツールとしての活用も考えられる。

9 積極的な情報発信

・校内の取組や様子について積極的な情報発信を行っている。また、寄宿舎を持つ支援学校として保護者からも情報発信へのニーズが高い。学部間で分担し、学校の様子については、ホームページ、ブログ、Facebook、メールマガジン（要登録）で、毎日昼夕の給食のメニューについてはTwitterで紹介している。

Web（ブログ） Facebook Youtube Ch

【まとめ】

GIGAスクール構想以前から積極的に授業の中で効果的なICT活用を進めてきた健康の森学園支援学校ですが、さらに環境整備が進み、遠隔技術の活用を中心に、幅広く様々な授業や業務の改善を進めている様子を伺うことができました。遠隔技術の活用は、感染症対策の側面が大きいのは確かですが、時間と距離を縮めるICTの活用は、児童生徒の体験や経験、新たなコミュニケーションの場になっているのではないでしょうか。また、積極的な情報発信による学校経営への好影響も感じられました。

GIGAスクール構想の推進には、各校が同じ実践や目標で進めるのではなく、それまで抱えてきた課題そのものに対し、教育の情報化の推進がどう寄与できるか、という視点の大切さを感じました。

小学校

赤磐市立山陽小学校の取組

ICT活用の実践

赤磐市立山陽小学校でのICT活用の実践状況を取材しました

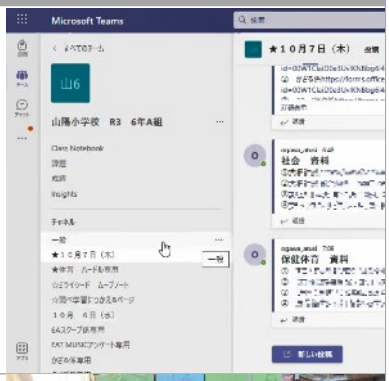
【概要】
山陽小学校における授業での１人１台端末の活用は、５・６年生を中心に進められていました。中でも教科担任制も始まっている６年生の活用状況を中心に取材しました。そのほか、校務でのICT活用の様子もお聞きしました。
活用しているICT環境は、①１人１台端末（Windows）、②Microsoft Teams　③ Microsoft Office365　④ベネッセミライシード　ムーブノート、⑤東京書籍タブレットドリル、⑤スズキ教育ソフト　キーボー島など。

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 教科指導における活用

1　【各教科】Microsoft Teamsをポータルとして活用

各クラスのTeamsの中に、日にちで分けたチャネル（チーム内の専用セクション）や、各教科、係活動などのチャネルを作り、学習で使う資料や何度も活用するファイルを共有している。チャネル内のファイルを開くことで、児童も教師もいつでもファイルを確認できる。また、高学年の教員同士が情報を共有できるTeamsもあり、授業の資料や授業で活用するアンケートなどの情報も共有している。デスクトップにTeamsのショートカットを設定しておくことで授業の開始時にすぐに始めることができる。Teamsをポータルとしてそこから他のソフトウェアへつながるようにしておくことで、スムーズな授業展開ができる。

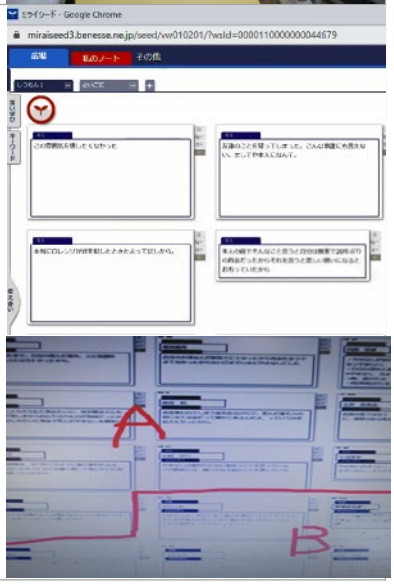


2　【国語】共同編集機能を利用した授業づくり

手書きとタブレットの両方を活用できるように、それぞれのメリット、デメリットをクラスで共有している。調べ学習のまとめのレポート作成では、1人１台端末で共同編集を行うことで、チームで相談しながら作成ができた。完了したチームはTeams内で提出することで、データでのやりとりが可能となり、学習の効率化と同時に管理も容易になった。完成したレポートは印刷して教室に掲示することで、お互いのチームの作品を見比べたり、参観日などの機会に保護者にも見てもらえるようにしている。

3　【国語】ムーブノートを用いて感想や考えを共有

ベネッセミライシードのムーブノートでは、個人思考したお互いの意見を瞬時にクラス全体で共有することができる。これを利用し、筆者の独特な表現に対してどんな情景が浮かぶのか、コメント機能や拍手機能を用いて意見を交換したり、共有したりしている。うまく表現できない児童や言葉が思い浮かばない児童もそれらを足がかりに自分の思いを持つことができた。また深い学び機能を使うことで、意見の変容や深まりを視覚的に確認でき、そこからどうしてそう感じたのか発表・共有することができた。発言が苦手な児童にも非常に有効であった。
また、高学年に導入された教科担任制指導の特性をいかした授業づくりとして、他のクラスと意見を共有することで、お互いにコメントを書いたり、新たな着想を得ることができた。１時間目にＡ組、２時間目にＢ組で行った初発の感想を、次の日に全体で交流し、共感できる意見には拍手機能を用いるなどして一度に多くの考えにふれさせることができた。



4 【国語】デジタルとアナログを併用した授業づくり

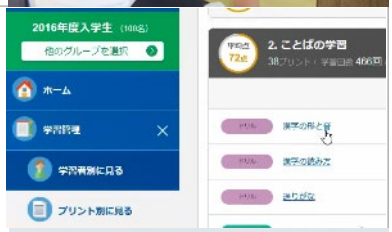
じっくりと考える時には、まずは自分のノートに書く方が思考がまとまりやすい。その後ムーブノートに入力したり、写真で共有したりすることで自身の手元に資料を残し、なおかつ考えを整理して表出することができる。また、作文のような長文を推敲する際や、とにかくたくさんの考えを出すようなブレインストーミングでは端末を使うと作業が早く、それぞれのメリットを活用した授業づくりを行っている。

5 【基本操作】文字入力が苦手な児童への配慮

Teamsにスズキ教育ソフトのタイピング練習ソフト「キーボー島」のチャネルを作成しておき、隙間時間にはいつでもタイピングの練習ができるようにしている。

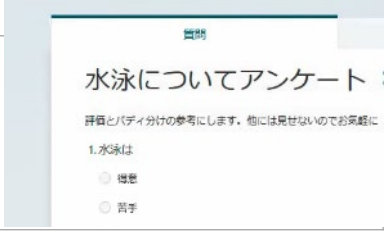
6 【ドリル学習】タブレットドリルを有効に活用

タブレットドリルを活用して、決まった曜日の朝の時間や隙間時間に学習の定着を図るようにしている。一斉に同じプリントを行ったり、児童が自分に合ったプリントを選択して取り組んだりしている。教員は児童の取組の進捗状況を一目で確認できる。



7 【各教科等】Microsoft Formsを活用した振り返りやアンケート

授業前に行うアンケートや、単元末での振り返りなどにFormsを活用している。学級活動でクラスの思いを聞きたい時や、学校行事の後の振り返りにも活用することができる。



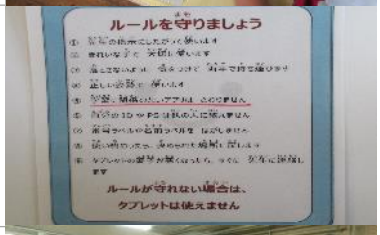
B 学習環境やルール、校務の情報化

8 【学習環境】バックアップを想定した授業づくり

各クラスが一斉にネットワークを使用することで一時的に通信状況が悪くなることがある。そのため、紙のノートでの作業に変更できる用意をしている。また、使用できる児童のタブレットが数台ある場合には、それらを共有した授業展開ができるように、デジタルワークシートを工夫しておくなどの不測の事態を想定した授業づくりを行っている。

9 【ルール】タブレット使用のルールを児童と共有

タブレットを使う際に生じる、チャット機能や動画の閲覧について校内でルールを作り、運用している。情報担当教員を中心に他校や自校のトラブル事例をもとにルール作りを進めるとともに、児童とルールを共有している。



10 【校務の情報化】Teams共同編集を利用した学年会議

共同編集機能を使用しながら学年会議を行うことで、リアルタイムに情報を編集、共有でき、迅速に業務を進めることができている。紙の方がよい場合と、共有したデータを直接編集する方がよい場合とがあり、その時々で効率的な方法を考えて使用している。

【まとめ】

タブレットを使う時間帯や使い方などを、児童と一緒に考え、活用してきたことで、児童の中にもタブレットは授業の中で学習のために使うものだという意識が育っていました。どの教科の、どの単元で、どの機能を使えば効果的か一緒に考えながら進めているとのことでした。特に教科担任制で行っている教科については、学級内での意見の共有だけでなく、学級を越えた意見共有も行われており、児童の考えを広げる助けとなっていました。低学年での活用には、高学年のノウハウがそのままでは活用できないので、これからも思考錯誤しながら取り組んでいくとのことでした。

小学校

奈義町立奈義小学校の取組

１人１台端末を活用した授業・組織的な推進体制・校内研修

奈義町立奈義小学校で１人１台端末を活用した授業を取材しました

【概要】

奈義町立奈義小学校では、１人１台端末を活用した授業づくりを進めるために校内研修の充実に努めています。今回は、４・５・６年生の授業と校内研修を取材しました。

ICT環境の整備状況は、①１人１台端末（Windows）、②Google Workspace for Education Fundamentals、Office365、③AIドリル（タブレットドリル）、④教材提示装置、⑤デジタル教科書。

【授業におけるICT活用のポイント】

A　４年生【国語】「世界にほこる和紙」

【本時の目標】「はじめ」「中」「終わり」のまとまりごとに中心となる語や文を捉え、文章を要約する。

1　Classroomに課題として、要約文の入力用「ドキュメント」ファイルを配付しておく。

・ノートパソコン活用のルールを町で統一し、教師の指示により端末を開いている。

2　要約文の作り方を全体で確認する。

・教材提示装置を使い、スクリーンに要約文の作り方を映し出し、全体に分かりやすく説明する。

3　300字の文章を200字以内で要約する。

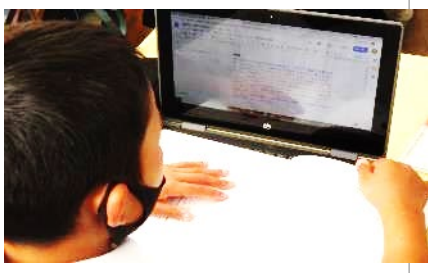
・書く、消す、移動する、文字数をカウントする等、手書きではできない「ドキュメント」のよさを活用している。

4　Classroomに自分の要約文の「ドキュメント」を提出する。

・提出状況の確認や出席番号順の並び替えなどの手間が減る。

5　振り返りをする。

・Formsを使うことで、学びの成果が一覧となり、次時の授業改善や評価にも生かすことができる。



B　５年生【算数】「面積」

【本時の目標】三角形の面積の求め方を考え、説明する。

1　前時の復習をする。

・デジタル教科書をスクリーンに大きく映し、直角三角形の面積の求め方を全体で復習する。

2　三角形の面積の求め方を考える。（個人→グループ）

・個人の端末にJamboardを使った課題を送信し、求め方を自力解決し、グループで交流する。

・自分の考えを色や矢印などを使い、自由に書いたり消したりすることができる。また、複数の考えがある場合は、次のスライドに記述する。

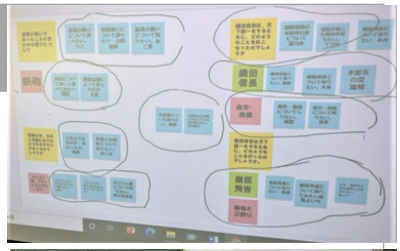
3　全体で交流する。

・自分の考えをClassroomを使って送信することで、一覧として全員の求め方を共有することができる。

・児童の考えを大きく映し出し、図や式を示しながら全体に説明させる。

4　ふりかえりをする。

C　６年生【社会】「戦国の世から天下統一へ」



【本時の目標】自分の学習課題に対して、本やインターネット等を使って主体的に調べ、スライドにまとめる。

1　学習の進め方を確認する。
・教材提示装置を使い、スクリーンに学習の進め方を映し出し、全体に分かりやすく説明する。
・社会科の単元の導入として、自分の疑問を学習課題として設定し、２～３人のグループで解決する。

2　学習課題を解決する。
・教科書や資料集だけでなく、図書室の本やデジタル教科書、インターネット、NHK for Schoolを活用する。
・資料と思考ツールの２画面を駆使したり、グループでスライドを画面共有したりして、情報を整理している。

3　本時の振り返りをする。

D　校内研修会から（成果と課題）

1　学校全体でルールの徹底ができている。
・①ノートパソコンは両手で持つ、②教師の指示で準備や片付けをする、③活動にメリハリを付ける（教師や友達の話を聞くとき、ノートを書くとき、パソコンを使って活動するとき）等、学校全体で授業規律の徹底ができている。そのことにより、ICTの効果的な活用はもちろん、トラブルが少なくなるメリットがある。

2　困ったときは、友達に聞く雰囲気がある。
・送受信の仕方、ローマ字入力の方法等、操作で困っているときは、教師だけが支援するのではなく、周りの友達がすぐにフォローする姿が多く見られた。協力して学習を進めることで、児童同士の人間関係づくりにも役立っている。

3　本時の目標を達成するためにICTの強みを生かす。
・校内研修会では、授業者から「本時の目標を達成するために、○○を活用しました」という説明があった。目的は、本時の目標を達成することであり、そのための手段としてICTを活用するという立ち位置がはっきりしている。

4　発達段階に応じたスキルを明確化する必要がある。
・デジカメでの写真撮影、インターネットでの情報収集、ローマ字入力等、系統的な指導が必要になる。

【まとめ】 どの授業も、**ICTの強みを生かしている**ことが印象的でした。「一斉学習」では、導入で、教材提示装置やデジタル教科書を活用して、画面に注目させて説明したり、展開では、Jamboardで友達の考え方を共有し、自分の考えと比較や関連付けをしたりして理解を深める様子を見ることができました。また、「個別学習」では、自分の考えを自由に書いたり、色を付けたり、消したりして、思考を深め、整理する様子を見ることができました。

奈義小学校では、校内研修に外部講師を招き、指導助言を受け、研究授業と協議を繰り返しながら、全員で授業改善を行っています。そのポイントは、**管理職や研究主任を中心とした組織的な推進体制**はもちろんのこと、チャレンジを大切にしたり、困ったことを一緒に解決したり、良いことを共有したりする**教職員の連携**も重要であると感じました。

中学校

赤磐市立磐梨中学校の取組

１人１台端末を中心としたICT活用の実践

赤磐市立磐梨中学校でのICT活用の実践状況を取材しました

【概要】

磐梨中学校では「ICTは文房具」を合言葉に、トライ&エラーを繰り返しながら、学習面だけでなく、教育課程の反省や部活動の出欠確認、各種アンケートなど様々な場面でICTを活用しています。

活用しているICT環境：①１人１台端末（Chromebook）、②Microsoft Office365、③Sky株式会社 SKYMENU Cloud、④NTT Communications まなびポケット、⑤スズキ教育ソフト　スズキ校務、⑥Zoom等。

【教育の情報化の推進に関する活用のポイント】

A 教科指導における活用

1 【理科】１人１台端末を活用した、調べ学習からプレゼンまでの授業

１人１台端末を活用して生物の特徴についてインターネットで画像を検索し、調べた内容を基にプレゼンの制作を行った。SKYMENUの発表ノートを活用することで、個人で調べた内容を効率的に班ごとにまとめたり、各班のプレゼンを一覧表示したりすることができる。生徒の学習意欲はとても高く、端末操作が苦手な生徒がいても、進んで教え合うことで互いに高め合う姿が見られた。インターネットでの情報検索では、収集した情報から必要なものを選択する力や正しい情報を見極める力の育成も行っている。

2 【社会】小テストでFormsを活用

ある社会の授業では、授業の始めにOffice365のFormsを活用した小テストを行っている。自動の採点機能もあり、すぐに解答を確認することで、時間ロスも少ない上に、既習内容の復習を図ることができる。

3 【各教科等】生徒の端末の制御に学習活動ソフトウェアを活用

学習活動ソフトウェアのSKYMENU Cloudでは、従来のSKYMENU Proと同様に生徒の取組の様子を教師の手元で確認したり、教師の話に集中させたりしたいときには生徒の端末の操作をロックすることができる。これにより、端末での作業に集中しすぎて話を聞き逃すということもなく、円滑に授業を進めることができる。

4 【各教科等】デジタル教科書と教材提示装置で、生徒への指示を的確に行う

教師用のデジタル教科書や教材提示装置を活用し、生徒に注目させたいことを教室の大型テレビに示すことで、作業内容や方法など、教師からの指示を的確に伝えることができる。従来から行っている方法だが、１人１台端末と合わせて活用することで、より一層生徒の理解度を上げることができる。

5 【総合的な学習の時間】１人１台端末とOffice365を活用した情報共有により可能となるペーパーレスの発表会

与えられたテーマに沿って調べた内容をWordでレポートにまとめ、Office365のTeamsに提出している。教師が事前に印刷しなくても、生徒はお互いのレポートをそれぞれの端末で見たいサイズで閲覧することができ、ペーパーレスで発表会を行うことができる。これにより教師の印刷の手間を省き、教材研究の時間をより多く確保することができる。

6 【帰りの会】タブレットドリルを活用した、下校前の１０分間学習

東京書籍のタブレットドリルを活用し、下校間際に１０分間学習を行っている。タブレットドリルは小単元ごとのプリントが電子化されたもので、手書き入力とキーボード入力のどちらにも対応しており、自動採点機能も備わっている。また、レベル別のプリントやわかりやすい解説動画も用意されており、一人ひとりに合った学習が行える。

B 生徒会活動や部活動での活用

7 【生徒会】Zoomを活用したオンラインでの全校集会

コロナ対策で全校生徒が一堂に会することができないという問題を、Zoomを活用することで解決している。各学級ごとにつないだZoomの画面を大型テレビに映して実施している。Zoomを活用することで双方向での通信ができ、各クラスからの発言を全校に配信することもできる。

8 【部活動】Formsを活用した保護者からの欠席連絡

まだ試験的ではあるが、ある部活動で保護者からの休日の欠席連絡を、Office365のFormsを活用して行っている。これにより、対外試合の際など、校外に出ている顧問に欠席の連絡が取れない問題を解決することができる。顧問はスマートフォンで欠席連絡が来ていることを確認できる。

C 教員研修や校務でのICTの活用

9 【教員研修】Zoomを活用した学校間での教員研修

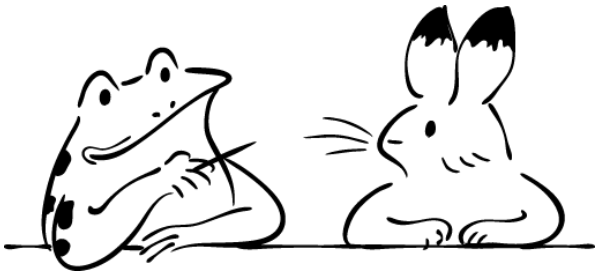
近隣の小学校や中学校など、学校間での教員同士の研修にZoomを活用している。お互いに出張に出られない場合でも動画を活用した授業研修を行うことができ、教師の学びを止めない工夫をしている。

10 【校務】校務支援システムを活用した校務負担の軽減

教員間の連絡事項はスズキ教育ソフトの校務支援システムのコミュニケーションツールを活用して情報共有している。朝の職員間の連絡の時間を減らしたり、市内の教員間で個人メッセージの交換をしたりすることで、連絡をとりやすくしいる。また、生徒の出席確認の記録や、生徒指導の情報共有、成績処理や通知表の印刷など様々な場面で仕事の効率化が図られている。

【まとめ】

磐梨中学校では、「ICTは文房具」を合言葉に、常に挑戦していく姿勢で取り組まれていました。年度当初、新しい取組として１人１台端末の導入や授業等での活用を始めたときは、取り掛かりが難しいと感じる先生方もおられたようですが、現在では便利に使われています。今年の磐梨中学校のテーマは「挑戦！磐梨Happy Schoolの実現」ということで、ICT活用についてもこの目標達成に向けて生徒と教師がともに挑戦している様子が伺えました。



岡山県総合教育センター
https://www.pref.okayama.jp/soshiki/215/

岡山県総合教育センター
公式 YouTube Ch

岡山県総合教育センター 企画部

〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL 0866-56-9102（企画部）
FAX 0866-56-9122（企画部）
Web https://www.pref.okayama.jp/soshiki/215/

「UDデジタル教科書体」は、デジタル教科書をはじめとしたICT教育の現場に効果的なユニバーサルデザイン書体です。学習指導要領に準拠し、書き方の方向や点・ハライの形状を保ちながらも、太さの強弱を抑え、ロービジョン（弱視）、ディスレクシア（読み書き障害）に配慮したデザインで、リーダビリティについてのエビデンス（科学的根拠）も取得しました。また、2016年度より施行された障害者差別解消法の理念にも基づき設計されています。最新のWindows10に標準でインストールされています。

https://www.typebank.co.jp/feature/uddkyo/